

REFERENCES

授業サポート

情報処理

「グループによるwebページ制作」

流れ --- 目的 > 授業の流れ > プランニング > 著作権問題 > 具体的収集手段 > 制作

目的

膨大な情報量を持つインターネットから自分が欲する情報を収集するには、それなりの訓練が必要である。その訓練を行うことによって、より良質な情報を収集し、自分自身の知識として身につけることができる。webページを制作することによって自ら情報を発信し、作品を発表することができる。反面、セキュリティやプライバシー、そして著作権など様々な問題が生じてくる。ここでは、情報を収集し整理し発信することの重要性、そして生じる問題点に気付くことによって、発信する側の責任について考えたい。

授業の流れ

1	グループ研究の説明、グループ分け	1時間
2	プランニング(テーマの決定、コンセプトシート、構成図)	1時間
3	情報の収集(インターネット、書籍での資料収集)	2時間
4	ホームページの制作	3時間
5	中間発表、プレゼンテーション	1時間
6	ホームページの制作	5時間
7	発表会、プレゼンテーション	2時間

プランニング

研究テーマが決まったら、コンセプトシート、計画表、構成図を記入します。グループで意見を出し合いながらまとめていきましょう。

webページを制作する上で最も重要なことは、何を見せたいのかそれをまずきめることです。「見た目」も大切ですが、一番大切なのは「内容」です。ここをちゃんと詰めておかないと、必ず後で行き詰まり、ページや画像のリンクがガタガタの無様なページになってしまいます。まずは頭の中にあるものを紙に書き出し、載せたい内容の優先順位を付け、一番見せたいページは何か、次は何かを割り出しておくのは大切なことです。

<コンセプトメイキング>

webページのデザインで最初に考えなくてはならないことは「なぜ作るか」「なにを作るか」からです。それをはっきりさせることをコンセプトメイキングといいます。企画書を記入して目的・利用対象者・内容などについて検討することが重要になります。

<スケジューリング>

コンセプトシートが完成した時点で、次に制作のスケジュールを作成します。作品の公開日程を決め、それに合わせて制作スケジュールをたてます。情報収集、素材制作、ページの作り込みに必要な日数、時間を考えて計画表を書くといいでしょう。

<構成>

次にwebページ全体のページ構成を考えます。webページは階層構造で組み立てると、ページのリンクがイメージしやすくなり、ページ数が増えても迷子になりにくく扱いやすいです。公開されているほとんどのwebページはこの階層構造で組み立てられています。webページは、書籍の表紙にあたるトップページが最初にあります。サイトにアクセスすると必ずこのトップページから開きます。よくwebページのことを「ホームページ」とよびますが、本来はどのページにリンクしても、このトップページに戻るという意味でトップページのことを「ホームページ」と呼ばれています。

そして、制作するページのイメージを具体化するために、ページごとに絵コンテを描きましょう。手書きで描いていきますが、ページ全体のレイアウトを重視して、デザインや見やすさを考えて描きましょう。文章や写真、イラストの配置、イメージもこの時点で描いておくのとあとから素材を作る時に便利です。

情報の収集1・著作権問題

情報の収集では、webページ・書籍・アンケート・取材といった手段が定石となっており、企画内容を整理する段階で、主にその中からどういった手段で収集すべきか検討します。ところが、ただ情報を収集して、それを切り貼りしてwebページを作ればいいというわけではありま

せん。他人の制作した情報を使う際、そこには「著作権」問題が生じます。まずはそのことを頭に入れた上で、情報収集計画を立てましょう。

<著作権とは>

知的財産権のひとつで、作者がその著作物を独占的に利用できる権利をいいます。著作物の複製・上演・演奏・放送・展示・翻訳などを含み、書籍、webページなども著作権に十分注意する必要があります。著作権表示は「Copyright...All rights reserved」「(C)」の形で記されていることが多いです。

詳しくは、社団法人コンピュータソフトウェア著作権協会のサイトを参考にしてみてください。
<http://www.accsjp.or.jp/>

<著作物の使用許諾を取る>

書籍、webページの情報を利用する場合、その著作権は基本的に著者、出版社やサイト管理者に存在するため、以下の手続きを踏まなければなりません。

文章の場合	写真・図表の場合
記述されている文言をそのまま使用することはできません。参考として利用する場合は、自分で文章を作り、最後に参考文献として出版社、著者、発行年を記述します。webページの場合はサイト名、URLを記述してください。	使用する際には著作権者とE-mail、電話あるいはFAXで連絡を取り、使用許諾を得なくてはなりませんので、文章よりも手間がかかります。

写真・図表を利用する場合、E-mailで連絡できるならば、それで許諾を得るといいでしょう。下に1つ例文を挙げますが、成功の秘訣は、「自分は誰なのか」「使う目的とそれまでのいきさつ」「何を使いたいのか」「自分の連絡先」などを明確にすること、そして礼儀です。これは電話やFAXの場合にも言えることです。

はじめまして。
 私は神奈川大学附属高等学校2年の神奈川太郎と申します。突然のメールをお許しください。今回、学校の情報の授業でホームページを制作することになり、私たちのグループは「花火づくり」をテーマに資料収集を進めているところです。貴サイトのページ「大花火大会の舞台裏」の、

- ・写真全11枚
- ・火薬の配置の図全3枚
- ・隅田川花火大会の花火の製造元リスト

を、貴サイトの名前とURLを表示の上、使用させていただきませんか。

どうか、よろしくお願いいたします。

神奈川大学附属高等学校 2年 神奈川太郎
 81taro-kanagawa@lycos.ne.jp

情報の収集2・具体的収集手段

<二次的データ>

他人の制作したデータのことです。これを利用する際、前述の「著作権」問題が絡んできますので注意してください。

(a) 書籍

これは情報収集の基本であると言えます。この学校の図書室や家の近くの図書館、横浜市立図書館、神奈川県立図書館といったあたりで探すことが多いと思いますが、神大附属の高校生なら、神奈川大学図書館を利用するというのも一つの手です。

(b) webページ

この学校の強みが活かれます。しかし、WWW上には数多くのwebサイトが存在するので、探し方を間違えると時間ばかりかかってしまいます。有用な情報を迅速に得るために、次の3つは覚えておきましょう。

- 1) あるならば、公式ページを探す
- 2) 検索するとき、「絞り込み検索」(キーワードの後に、スペースをおいてさらにキーワードを入力する)を有効に利用する
- 3) どうしてもない場合はきっぱりとあきらめて、書籍等他の手段を用いる

さて、ページ検索をする際、あなたはLYCOSやYahoo!を使うと思いますが、そういったサイト

のことを「サーチエンジン」と言い、それらのほかにもまだまだあります。サーチエンジンには「ディレクトリ型」「ロボット型」の2タイプがあり、前者は登録されたサイトをカテゴリ(テーマ)ごとに整理し、その中で検索を行うもので、後者は定期的にWWW上の不特定多数のページを巡回し集めた文書の山から検索を行うものです。ディレクトリ型のいいところはヒットする(見つかる)情報の質がいいことで、ロボット型のいいところは、なかなかマイナーなキーワードからも多数のページがヒットすることです。

ディレクトリ型	中性	ロボット型
Yahoo! JAPAN http://www.yahoo.co.jp/ Yahoo! USA http://www.yahoo.com/	LYCOS Japan http://www.lycos.co.jp/	infoseek Japan http://www.infoseek.co.jp/ goo http://www.goo.ne.jp/ Excite Japan http://www.excite.co.jp/

なお、WWWから集めた情報は、このように整理するとよいでしょう。

- 1) アドレスを自分のフォルダに保存する
Internet Explorerの「アドレス」の左側にあるアイコンを、自分のフォルダまでドラッグ & ドロップ。
- 2) 必要なページをプリントアウトする
大変便利ですが、大量印刷は控えましょう・・・。
- 3) ページ上の文書(テキスト)・写真・グラフなどを一括して自分のフォルダに保存する
「ファイル」メニューの「保存...」で、?を選んでOK。

<一次的データ>

一次データとは、自分で集めたデータのことです。

(c) アンケート

学校の生徒、教員の意識調査からデータを集める事は、研究を行う上で大変有効な場合があります。また、学校外でアンケートをとっても構いません。チャレンジしてみましょう。ただし、アンケートは大量の紙と人の手間がかかる情報収集手段なので、本当に必要なのかどうかをじっくり考えた上で行ってください。

(d) 取材

ただ資料を集めるより、実世界から「材を取る」ことで、できるwebページの表現力が格段に上がります。デジタルカメラで写真を撮ったり、事前にアポイントメントをとってインタビューをしたりすることは、きっとよい人生経験になることでしょう。学校では、デジタルカメラやデジタルビデオを用意しています(数に限りがあります)。そのほか、ボイスレコーダーなどを使ってもよいでしょう。

制作

「リファレンス > ソフトウェア」以下を参考にしてください。